

25年前に選手として全中制覇

ハンドボール 名古屋・平針中男子

鳥本岳志監督

輝く 指導者たち

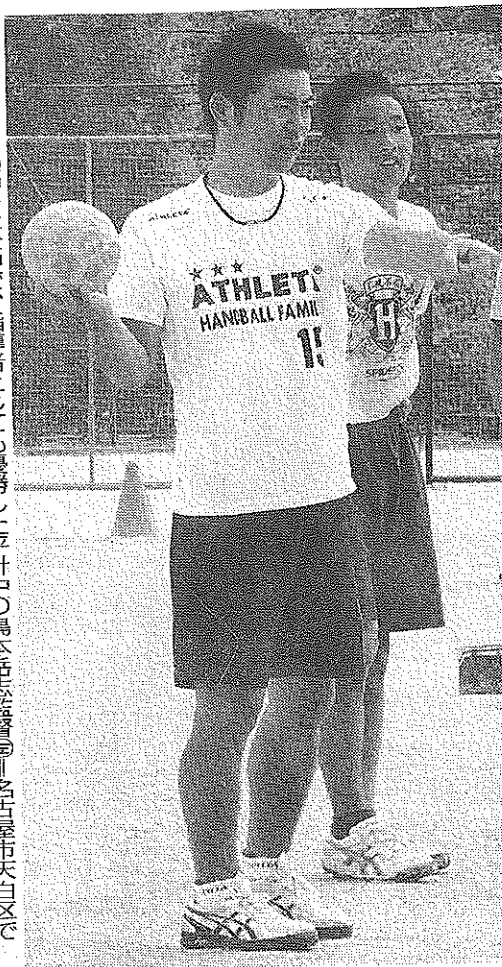
8月に広島県東市で行われたハンドボールの全国中学校大会(全中)で、平針中(名古屋市中大区)が

男女とも優勝を果たした。男子の鳥本岳志監督(40)は、東陵中(同緑区)3年時の1985(昭和60)年に主将として全中優勝を経験。教え子たちを信頼することで、再び全国の頂点にたどり着いた。

就任2年目での全国制覇。選手に胸上げされた鳥本監督は、自然とガッツポーズをつくっていた。9年間指導した汐路中(同瑞穂区)を全中準優勝2回の強豪に育てたものの日本一には届かなかった。昨年、平針中へ赴任し、自身が難局を乗り越えるために大切なのは選手オの導入や名門校の練習

たのを機に指導スタイルを変えた。「自分がずっといないと練習にならない」といって、自らも全中を制覇した。元選手だけに直接言って指導するのは簡単。しかし、日本一に始めるために大切なのは選手オの導入や名門校の練習

教え子信じ再び頂点



▼鳥本岳志(とりもと・たけし) 1970(昭和45)年6月1日、名古屋市緑区生まれの40歳。名古屋市東陵中でハンドボールを始め、3年時の全中で優勝。桜台高、南山大を経て94年に中学校教諭に。00年に汐路中へ赴任、男子を全中準優勝2回、3位1回の強豪に育てる。昨年度からは男子U-16(16歳以下)日本代表コーチも務める。

一歩引いた指導で判断力養う

脂乗りきる40歳

春中の愛知県予選準決勝で平針中を破った滝ノ水中和(同緑区)の鈴村和也監督も東陵中の同期生。名城大の本山慶樹監督もそうだ。メジャー監督は40代を過ぎても、指導者としての活躍が期待される。鳥本監督も、今後高まる。

離れるつもりだった。だが、決して名門ではない南山大の同期生も熱心にハンドボールを追求していることを知る。南山の仲間とはにかくひたむき。彼らが自分と同じ中学、高校の環境にいたら十分やれたはず。自分は恵まれていたと思っただけで、南山大では日本リーグの日新製鋼で活躍した吹上明さんがコーチを買って出てくれたおかげで、4年時にインカレにも出場できた。常に指導者に恵まれたハンドボール人だ。「恩返ししたかった」。自分も指導者になる決意をした。そして指導者生活16年目、運命の

中部スポーツ 応援宣言

「何とか結果を出さな自分か奪っていたこと。選手を信じて、任せてやれば結果は違っていたかもしれない。その子たちの悔しい思いもあって今年(全中制覇)があるというのが今の心持ち」。全中の会場には本谷さんも吹上さんも駆け付けた。恩師と、これまで育てたすべての選手への思いに報いた、うれしい初優勝だった。(斎藤正和)

金沢初戦
秋季高校
大会組み
秋季高校
の組み合
15日、富
れ、出場
が別表の
た。開催
会の上位
4校

23日	9:00市
24日	10:00市
25日	11:30市

北信越
野球大会
組合わせ
1位(富山)
2位(長野)
3位(福井)

